

ヨコハマ市民まち普請事業

第1次提案書

注1）3号様式はページを増やさず、必ず2ページ以内でまとめてください。

注2）3号様式は市民に公開しますので、個人が特定できる情報は記入しないでください。

注3）添付資料は位置図、現況写真、活用イメージ図、その他資料、各A4版1ページ、余白15mm以上としてください。

提案グループ名 (25字以内)	二つ台みーとみーとPJ
現在の主な活動 内容・活動実績	・地域の人や学生による組織作り（現在45名ほど） ・学生中心で周辺敷地の模型を作成 ・羽沢横国まちづくり協議会への参加 ・常盤台ワークショップ（国大と地域で長年行われているWS）への参加 ・SNS（Instagram）での情報発信
提案場所	保土ケ谷 区 釜台 町・丁目
提案名 (25字以内)	シェアキッチンを備えた多世代交流拠点の整備
提案する施設 (どのような施設の 提案ですか)	横浜国立大学のすぐそばにあった精肉店を改修し、シェアキッチンを備えた多世代交流拠点と学習塾（まち普請整備対象外）を併設した地域拠点。昼は学習塾部分も地域拠点として開放する。 学習塾は、①机とイスさえあれば運営できる。②子どもたちが学校に通う昼間は空間を持て余している。ということに着目し、学習塾×交流滞在空間×シェアキッチンで構成される交流拠点を整備し、地域へ開放する。 同じ地域にいるのに接点の少ない①子どもたち②大学生③お年寄りをターゲットとして多世代交流拠点をつくるにあたり、人々の集いや交流のサポートインフラとして業務用のキッチンを導入する。地域住民のみならず事業者へも貸出を行い、世代交代問題でさびれつつある二つ台地域での開業に種をまく。 日替わりでキッチンやホールの貸し出しを行うことで経済的側面からも交流拠点の維持運営をサポートする。 整備費用の概算額：約 500万円
活用イメージ (提案する施設で どのようなことを 行いますか)	①みーとみーとカフェの運営 ②イベントの企画 ③場所貸し（キッチンなど）を通じて総合的に地域の拠点となることを目指す。 ① すぐ近くの実バス停には屋根がないため、雨の日など、バスが来るまでおしゃべりしながら時間を潰す（この地域に足りない気軽に腰を下ろせる居場所）。 ② 月替わりでテーマ（食、パン、本、音楽、学びなど）を決めてイベントを開催。色々なコミュニティが気軽に立ち寄れる場となるようにする。 ③ こどもたち/大学生/お年寄りなどが身分や立場や性別を問わず集まり地域サロンを結成する（ex. 映画好きで鑑賞会、講師を招いて勉強会、お年寄りが子どもたちの宿題を教える、一緒に卓球をする。など）。 ③ 料理やお菓子作りが好きでいつかお店を持ちたい人（素人以上プロ未満）が試しにお店を開いてみる。日替わりで色々な店が展開し、地域に彩りが生まれる。 ①②③子育てに不安がある親御さんが気軽に集まれる場所やなくなってしまった「子ども会」の代わりになるようなイベントを企画したり、お年寄りが子どもたちの宿題を教えるような機会をつくる。
提案の背景（なぜ 提案をするのか、 地域のニーズや課	横浜国大に近接したこの地域に学習塾を開設するにあたり、学習塾以外の時間は地域のために開放できないかと考えた。当該建物は、周辺住民や横浜国大の西門を利用する学生なら知らない人はいない地域のシンボリックな精肉店（ご主

題、生かしたい地域の魅力等に触れて説明してください)	人の急逝により閉店)でありどのように利用されるかには高い期待が集まっている場所である。 地域の課題としては消えゆく地域の商店と、集まれる場所や居場所がないこと、横浜国大の学生と近隣住民の交流が希薄であることがあり、これらの課題を解決できないかという思いがある。
目指す地域の将来像(提案を実現することで、どのような地域にしたいと考えますか)	地域のだれもが知るこのまちのシンボリックな精肉店の跡地を、あたらしい地域拠点として再生することで、新たな交流や賑わい、繋がりを作っていきたいと考えています。 ここではキッチンを備えた交流拠点を整備することで、だれでも気軽に立ち寄れるような居場所をつくり、イベントやサロンの受け皿となることで、これまで希薄だった大学生と地域の交流や、子育て世代同士の連携、高齢者と子どもたちとの関わりを生み出します。
整備時の協働 (つくるときに連携する仲間や活用する地域資源注4)に触れて説明してください)	「ヒト」 地域ケアプラザ、横浜国立大学建築学科の学生、横浜国立大学で活動する様々な活動団体、自治会、羽沢横国まちづくり協議会を通じて多世代他分野の地域住人に周知し行うワークショップ形式での施工の実施。→自分たちが作った場所であるという経験から生まれる愛着や関心に期待。 「モノ」 大学の施設や既存の地域拠点等を活用しながら会議やワークショップを行う 「カネ」 クラウドファンディングによる資金調達を行いつつ、拠点の広報活動を行う。
運営時の協働 (運営するときに連携する仲間や活用する地域資源注4)に触れて説明してください)	「ヒト」 ・みーとみーとPJのメンバーによる地域交流企画や各種講座の実施。 ・常盤台社会福祉協議会との連携によるみーとみーとカフェ等の運営。 「モノ」 ・整備時に出会った人脈を活用して、W.S.という形で少しずつ必要なものを整備する。(ベンチや本棚や二つ台商店街の案内ボードなど) 「カネ」 ・キッチンやホールの貸し出しによって得られた収益として運営。
その他提案について特にPRしたい点を記入してください。	【学習塾 × 地域拠点のメリット】 ・通常の学習塾に通う中学生・高校生や現役世代の保護者たちは一般的に福祉拠点や地域との関わりが希薄になる傾向がある。一体の施設として整備することによって地域拠点単体では実現できない交流の発生が期待できる。 ・まちづくりのための拠点団体と学習塾の両軸での運営形態とすることで、開業や維持のハードルが下がる。

注4)「地域資源」とは、次のようなものを想定しています。

- | | | |
|---------|-------------------------|-----------------------|
| ○「ヒト」の例 | ・地域のPTAから協力を受けられそう。 | ・地域に設計の専門家がいる。 |
| ○「モノ」の例 | ・整備に必要な材料を安く入手できそう。 | ・整備に必要な建設機械を安く借りられそう。 |
| ○「カネ」の例 | ・自治会町内会から資金的な支援を受けられそう。 | ・バザーなどで資金を集められそう。 |

整備場所の地権者等注5)への提案内容及びコンテストに応募することについての説明状況	
説明の相手方	相手方の意見等
建物所有者	応募することについて書面にて説明済み。今後協議を行うこととなっている。

注5) 土地・建物を所有している、借りている、又は実質的に使用権利を持つ者(会社や行政機関も含む)

記載内容について、次の内容を確認後チェックボックスに✓を入れてください。

- ✓ 記載内容は真実であり、虚偽はありません。
- ✓ 記載内容に個人情報はありません。